令和6年度　江戸川区立大杉東小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よりよい目標を実現する子 〇考える子　〇やさしい子　〇やりぬく子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「夢のある学校」づくり　～一人一人の子供を主語にする学校教育の実現～ 〇「挨拶」「笑顔」「感謝」がしっかりできる児童　〇課題の解決に向けて、主体的かつ探究的に学ぶ児童 〇信頼に応える教師　〇授業で勝負する教師　〇「チーム大杉東」を高める教師　〇人生を充実させる教師
前年度までの本校の現状	成果	〇児童による自主的な挨拶の呼びかけやなかよし班活動の充実により、完全不登校ゼロやいじめの早期解決を図ることができた。 〇ミライシード、ムーブノートの活用部門で区内1位になった。ICTを活用し、児童の考えを共有する手立てとして有効活用できた。	課題	●新校舎での教育活動のスタートにあたり、新しい視点で、ルールや環境、教科指導等の見直しを図る必要がある。 ●教員の「働き方改革」のさらなる推進が求められる。 ●校内のＯＪＴを充実させ、若手教員の人材育成が求められる。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	**〇学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得**	・学習スタンダードの徹底 ・放課後補習教室の有効活用	・学力調査全国平均値以上	C	C	B	・放課後補習教室は、柔軟に実施する曜日を選択できるようにしたことで、参加者を増やすことができた。 ・全国の学力調査は全国平均、国語－３点、算数－２点。	B	学力の定着・向上に向けてはさらに力を入れてほしい。	B	児童のアンケートより、「すすんで手を挙げて発表する。友達に考えを伝えたり、すすんで調べたりする。」の項目は、昨年度より低くなっている。	B	ICTを活用して学習をすすめているのはよい。使用時間に関しては課題がある。	放課後補習教室や江戸川っ子study weekを、学力向上につながるよう、より効果的に活用していく。
	〇主体的・対話的な深い学びの実現	・主体的、探究的な家庭学習の工夫 ・一人一台端末の効果的な活用	・「調べる学習コンクール」全児童参加、入賞。	B	A	A	・ミライシードの活用が区内でオクリンク4位、ムーブノート３位と効果的にタブレットの活用ができている。	A	一人一台端末の活用はよくされている。家庭学習の課題についても、これからの時代を考えた工夫が見られる。	A	保護者アンケートより、「ICT機器の活用や探究する学びの育成」に関する項目で、８５%以上が肯定的な回答していて昨年よりアップしている。	A	学習発表会では、１年間の学習の集大成として、児童の主体的、探究的な学びの成果が見られた。	教師主導で教えるべき事柄と、児童が主体的に活動することを明確にして授業改善を図る。
	〇読書科の更なる充実	・「読書科ノート」を活用した、探究的な学習を年２回実施	・家庭での読書率６０%以上	C	C	B	・各学年で読書科を通して探究的な学習を進めている。 ・図書館のバーコード化を機会に児童の読書習慣を高めていく。	C	読書の習慣をさらに身に付けさせてほしい。	C	児童のアンケートより、家庭で読書をする児童の割合が昨年度より低くなり、全体の４９%であった。（－９%）	C	学校評価の結果から、本離れが増々進んでいることが伺える。本のよさを知る活動を取り入れてほしい。	読書をする環境を整える。図書館整備や静かな環境作り、時間の確保を徹底する。
体力の向上	**〇心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現**	・体力テストの練習場所の設置 ・年３回縄跳びウィークの実施	・体力テスト全学年、東京都平均以上	B	B	B	・どの学年も全国平均８種目中６種目以上で上回ることができた。	A	場所のない中、よく工夫されている。	B	限られた運動スペースの中、体力向上につながる場の設置や取り組みを設定し、体力向上に努めた。	B	１年間校庭がない状況で、体力をよく維持している。来年度は校庭で伸び伸びと体を動かしてほしい。	異学年交流をして、互いに高め合いながら体力向上を目指していく。
		・校内研究（体育科）の充実（外部との連携）	・Gボールを活用した授業を各学年で実施 ・研究授業（体つくり運動）年３回	B	A	B	・Gボールを活用した授業を各学年行っている。	A	子供が楽しく授業に取り組んでいることが何よりである。	A	年３回のGボールを活用した研究授業を行い、職員全体の体育科指導の理解を深めた。	A	運動が苦手な子も取り組みやすい運動でよいと思う。来年度以降も継続してよりよいものにしてほしい。	研究発表に向けて、今年度より更によい授業づくりをして提案できるようにする。
		・かんぽ生命全国小学校ラジオ体操コンクール参加	・校内のラジオ体操参加率、７０%以上	C	C	C	・朝の校内ラジオ体操参加率25%。	C	参加率の下方修正が必要。１００人が参加していることは素晴らしい。	B	年間を通してラジオ体操をすることができ、毎日参加する児童もいる。	B	継続して取り組むことができる児童がいることは素晴らしい。	参加率にこだわらず、自分の目標を達成したり、継続したりすることに重点をおく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	**〇特別支援教育の推進**	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施	・「個票」を用いた校内ケース会議を月１回以上	C	B	B	・事案が発生した時にケース会議を開いた。 ・障害理解教育に取り組んでいる。	B	どの子供も笑顔で過ごせるように様々な配慮をお願いしたい。	A	児童のアンケートより、「友達のよいところに気付いている」の項目で９１%の児童が肯定的な回答であった。	B	友達のよいところを認められる児童が多いことが分かった。（学校評価）友達のよいところを取り入れて自分を向上させてほしい。	児童に対して理解教育を行ったことは大きな成果だった。来年度も指導の充実を目指す。
	〇異学年交流の充実	・なかよし班活動の充実（人権の花運動） ・全校遠足の実施	・毎月なかよし班活動の実施 ・年２回の全校遠足	B	A	B	・６年生を中心になかよし班活動を円滑に実施している。 ・さらに児童中心の活動内容に見直していく。	B	異学年交流は今後も充実させてほしい。	A	６年生を中心に、異学年で全校遠足、なかよし班遊びや人権の花運動、チューリップの植え付けなどを行った。	A	異学年で交流することはとても大切な活動である。関わりを深める機会を大切にしてほしい。	行事以外での活動も検討する。異学年で活動する意義をしっかり伝えて意義あるものにしていく。
不登校・いじめ対応の充実	**〇校内組織の連携**	・SCとの連携（児童面接・研修会）	・５年生児童の全員面接の実施 ・SCの研修会を年に１回以上実施	B	A	A	・５年生児童の全員面接の実施を行った。放課後SCと担任が情報交換を行い連携を図っている。	A	関係機関との連携は今後も強化してほしい。	A	SCとの連携を含め、適宜不登校対策委員会を開くなど、組織的に対応を行った。	A	児童が相談できる窓口はたくさんあるといい。安心して学校生活を送れる取組を行ってほしい。	SC面談を身近なものにし、より多くの児童や保護者に相談の機会を提供する。
	〇児童理解の充実	・hyper-QUの実施	・QU学校満足群８０%以上	C	C	C	・QUの結果学校満足群６０%程度。	B	多くの子供が安心して学校生活を送れる環境づくりに今後も努めてほしい。	B	QUの結果学校満足群６０%程度であったが、学級担任を中心に一人一人の実態を理解して、適切な指導を行った。	B	全国的に自己肯定感が低い小・中・高校生が増えていることが心配である。温かい言葉を送り合う取組を提案する。	自己肯定感が低い子が多い。達成感を感じたり認め合ったりする活動を増やす。
	〇不登校児童への支援	・エンカレッジルームの運用	・全授業時間内におけるエンカレッジルームの開放	B	B	B	・全授業時間内におけるエンカレッジルームの開放をしている。２学期は利用児童がほとんどない。	B	教室以外にも自分の居場所があることで、安心につながるのではないか。	A	養護教員を中心にエンカレッジルームを開放し、利用する児童への対応を適切に行った。	B	１日も出席のない不登校児童がいないことはよかった。子供たちが安心して過ごせる場所を見つけてほしい。	校内の支援だけでなく、SSWやSCとの連携をより密にしていく。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	**〇校内の取組の積極的な発信**	・学校HPの充実 ・学校公開の実施、充実	・学校HPの毎日の更新 ・学校公開保護者参加率８０%以上	B	B	B	・学校HPを毎日更新し、校内の取組を発信ししてきた。	B	子供の元気な姿は、地域の活力となる。頑張っている様子を発信してほしい。	A	保護者アンケートより、学校は適切に情報を発信しているの項目は９０%以上が肯定的な回答であった。テトルの活用。	A	児童を通じて手紙を渡すよりも早く確実に情報が届くのは安心できる。	日々の学校生活の様子もHPで情報発信する。書初め展と学校公開と同日にし、参加率を高める。
	〇学校関係者評価の充実	・学校評議員会の実施 ・各行事毎のアンケートの実施と改善、充実	・学校評議員による各評価項目B以上 ・年度末肯定的評価平均値８５%以上	B	A	B	・各行事毎のアンケートの実施と改善を行っている。	B	学校が抱える課題に対して、今後も協力を惜しまない。	B	学校評議員会のご意見を基に、改善を図ってきた。	A	大きな問題なく学校運営をすることができてよかった。子どもたちが笑顔で生活するために今後も協力を惜しまない。	学校評議員や地域の方に安心して見守っていただける学校を目指して尽力する。
特色ある教育の展開	**〇竹馬活動の実施**	・竹馬活動、竹馬運動会の実施	・全児童が竹馬種目に参加	B	A	B	・学校公開で高学年が竹馬づくりを行った。活動場所を工夫しながら練習に励んでいる。	A	校庭が完成するまでもう少しの辛抱。安全に配慮して、伝統の竹馬運動会を成功させてほしい。	A	活動場所が制限される中、活動を工夫しながら、伝統の竹馬活動を行った。	A	竹馬運動会は素晴らしかった。これからも竹馬活動を継続して伝統を引き継いでいってほしい。	校庭での竹馬活動や竹馬運動会の実施方法を検討する。
	〇環境教育の充実	・グリーンアクションプランの実施（グリーンカーテン等）	・施設を活用した環境学習を各学年１回以上行う。	B	A	B	・４年生がグリーンカーテン、環境委員会は２学期以降、校舎周りの清掃活動を実施予定。	B	飼育動物について。今後、飼育小屋が完成したら、子供と交流できるような動物を飼ってほしい。	B	５年生は地域の清掃活動を行い、環境への関心を高めることができた。学習発表会で学んだことを全校に発表した。	A	学習発表会での５年生の発表は素晴らしかった。鑑賞した児童も環境に対する意識が高まったと思う。	校庭使用にあたって、環境教育の視点も取り入れて整備していく。